



幼稚園、小学校、中学校の連携も活発で、春には合同の遠足も行われている



木山往還との分岐点がある「御船口」。追分石(街道の分かれめに建てられた道標の石)が残る



市内のほぼ中央に位置する向山校区。国道3号・産業道路・白山通りなど主要道路が町内を通る



人の結びつきが強い校区で

高い防災意識を育む



「防災避難訓練と健康フェスタ」は地域での防災をみんなで考える大切な機会になっている

昔も今も変わらぬ交通の要所

熊本

市の交通の大動脈である国道3号や産業道路、白山通りが縦横に走る向山校区は、昔から交通の要所として栄えてきたまちです。

熊本城下の「札の辻」から日向(現在の宮崎県延岡市)へ通じる日向往還は、江戸時代までは白川に架かる長六橋を渡り、まず校区内の「御船口」へ至りました。また、「御船口」には、薩摩街道や木山往還、豊後へ繋がる南郷往還が集まり、その昔には商家や商人宿が並び、荷馬車や大八車で大いににぎわっていました。

幼稚園から一緒だから

「つながり」が強い

現在

の向山校区について、向山校区自治協議会の田上一成会長は、

「20年ぐらい前までは豊肥線の

周りに田んぼがあつたぐらいで、熊本市の中心地に近いのに、まだ田舎の雰囲気が残っていました。その一方で、昔から住んでいる人たちが、新しく住み始めた人たちをあたたくかかえてくれるので、とても住みやすいという声を聞きます」と話します。

また、校区内にある向山幼稚園、向山小学校、江南中学校が隣同士なのも、みんなが仲がよい理由だとか。「幼稚園から中学校までずっといっしょに通って、大人になるまでいっしょに育ってきた人たちがたくさんいます。みんなが顔見知りで、年をとってもお互いに〇〇ちゃんと呼び合つてとても仲がよい。親子2代にわたつて、そんな付き合い方をしている人もいて、ここでは人と人のつながりが濃厚です。その雰囲気まち全体をあたたかいものになっているのかもしれない。それをこれからも大切にしたい」そんな人と

人の「つながり」を生かしたまちづくりが、田上さんたちの願いでもあります。

年々盛んになる防災への取組

この

「つながり」は、防犯や防災には大きな財産になります。向山校区は、白川に面していることから地域の人たちの防災についての関心も高く、平成20年度からは校区が一丸となって積極的に地域防災活動に取り組むようになりました。活動の中心となったのが、「向山校区まちづくり委員会」でした。

「この年は中国・四川大地震、国内でもゲリラ豪雨が多発した時期です。向山校区でも大型団地やマンションが増え、防災面からも新旧住民の絆を強めることが求められています」と、まちづくり委員会の野間口壽子事務局長は言います。そこで、「向山校区の災害に